報告

2019 年度北海道支部大会報告

実行委員長（北海道支部長）　竹内 典彦 A

さる９月２２日（日）に、グローバル人材育成教育学会北海道支部の主催で、「グローバル人材育成教育学会第５回北海道支部大会」が、北海道情報大学（江別市西野幌５９－２）eDC タワー3 階多目的室で開催されました。北海道のこの時期としては比較的暖かく、気候的には申し分ありませんでした。帰りの飛行機の便が台風の影響を受けないか心配する本州方面からの出席者もいらっしゃいました。出席者数は３３名と、昨年度の支部大会よりも少なくなりましたが、内容的には今年も実り多い大会となりました。これもひとえに、ご講演された江川順一先生（立命館慶祥中学・高校副校長）と勝又美智雄会長、学会本部事務局のご支援、そしてご発表者の方々の質の高い報告と、はるばる遠方よりご参加いただいた出席者と賛助会員様のおかげであります。またこの場を借りて運営スタッフの皆様にも感謝申し上げます。事務局長・予稿集担当の田原博幸先生（札幌大学）、会計・受付担当の福沢康弘先生（北海道情報大学）、司会・写真担当の伊藤一正先生（同）、茶菓・司会担当の尾田智彦先生（札幌大学）、司会担当の中山健一郎先生（同）、写真・記録担当の浅見吏郎先生（同）、ご協力本当にありがとうございました。

今年の大会テーマは、『地域のリソースを活かしたグローバル人材育成』でした。12 時 30 分の開会後、勝又会長、筆者による挨拶、その後第 1 部（北海道企画）として最初に、スーパーグローバルハイスクール指定校の実践報告として「世界に通用する 18 歳～立命館慶祥のグローバル人材育成の試み～」と題して江川副校長が発表してくださいました。教育方針等の説明の後に具体的な教育プログラムと動画等による生徒の生き生きとした活動状況が紹介されて、その質の高さに

A: 北海道情報大学経営情報学部

驚かされ、「期待以上」「言うことなし」等、参加者からは絶賛する声が相次ぎました。江川副校長のたいへん率直な語り口にも参加者は感銘を受けた様子でした。

第2部は（招待発表）のセッションとして、初めに室蘭工業大学の小野先生から「外国人留学生と日本人学生の異文化交流実践―地方における遭遇機会創出に向けた人的資源シェアリング―」のご発表がありました。苫小牧高専と函館高専を含めた3つの教育機関による協働的プログラムであり、ユニークであり工夫された取り組みと貴重な留学生数の統計資料を提示していただきました。次に同じく招待発表として小田島敬太氏と穴田有一先生（ともに北海道情報大学）が「北海道情報大学における学生の国際交流推奨モデル」と題して発表してくださいました。説明の後にタイとの協働プログラムに参加した2名の学生が英語で感想を述べて、その一生懸命な発表に好感が寄せられました。

第3部は（会員発表）のセッションとして、最初に「英語が使えるグローカル人材育成のための日英コーパス―「喜界島バイリンガルコーパス」の試作―」と題して内田富男先生（明星大学、学会常務理事）による意欲的な離島の英語コーパス制作プロジェクトが紹介されました。北海道にいながら南の島の貴重なお話を聞くことができ、大いに聴衆の興味を引きました。次に「地域のリソースとしての理工系学生」と題して八木智裕氏（Global8（グローバルエイト））のご発表がありました。中谷医工計測技術振興財団とのプログラムを中心とするこれまでの取り組みをまとめたご報告でした。次に「高校生による地域の観光の国際化に関する提案～市役所との連携・協働を通して」と題して山崎秀樹先生（千歳高校）による高校生の英語部としての様々な活動が紹介されました。地域のニーズに応える形で具体的なすばらしいご報告がなされ勝又会長からも高い評価を受けました。休憩後に、勝又会長によるお待ちかねの特別講演「地域おこしとグローバル人材育成」が、大会最後のプログラム（第4部）となり、先生のお話に魅了されて、時のたつのも忘れてしまうほどの意義のある内容に感動いたしました。

前後しますが、第2部終了後に、賛助会員のチエル社様、Global8 様、桐原書店様、エル・インターフェース様、NTS 様からの貴重なスピーチもございました。閉会後は情報交換会が、eDC タワー2階のカフェテリアで開催されました。学会理事の穴田先生のご挨拶と乾杯のご発声の後、楽しいひと時も瞬く間に過ぎていきました。終わりに福沢先生の乾杯で会を閉じました。最後に伊藤先生が記念写真を撮影してくださいました（下部参照）。終わりに当たりまして、皆様のご協力とご支援に重ねて感謝申し上げ、報告に代えさせて頂きます。ありがとうございました。

受付日 2019 年 9 月 26 日、受理日 2020 年 3 月 14 日